

施策名	行政評価 施策 体系	水とみどりをはぐむまち	施策 統括課	環境政策課	氏名	中村徹
政策名		まちをつくる	施策 関係課	道路下水道課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

意図(対象をどう変えるのか)

- ・みどり豊かなまちになる
- ・水量及び水質を向上する

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 市内面積	km ²
イ 公共用水域	km
ウ	
エ	

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称	単位
ア みどりが多いまちだと感じる市民の割合	%
イ 湧水の測定地点における水質基準(環境基準)達成率	%
ウ	
エ	
オ	

2 第2次基本計画期間(平成23~27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
みどりの確保	屋上緑化・緑のカーテンなど、公共施設の緑化を行うとともに、民間の建物でも進めていきます。私有地の緑化の推進を図ります。青柳崖線や城山公園等の地域の自然と歴史を受け継ぎ、みどりを保全します。農地保全の取組を進めます。
水量の確保	雨水浸透ますの設置促進等により、地下水の保全(雨水浸透の促進)を行います。
水質の維持	水質の調査・監視を行い、現在の水質基準を維持します。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

単位		数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	ア	見込み値						8.15	8.15	8.15	8.15	
		実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	
	イ	見込み値			30	30						
		実績値	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
成果指標	ア	成り行き値				36.2	34.2	32.2	30.2	28.2	26.2	
		目標値				41.0	43.8	46.6	49.4	52.2	55.0	
		実績値	52.5		38.2	44.9	47.8	48.9	45.4	45.2	51.7	
	基本計画における 施策の目標設定の根拠			第1回国立市市民意識調査においては、52.5%の市民が「みどりが多いまちだと感じる」と回答していることから、この水準を上回ることを目指し、目標値を設定しました。								
イ	成り行き値				100	100	100	100	100	100	100	
	目標値				100	100	100	100	100	100	100	
	実績値	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
基本計画における 施策の目標設定の根拠			現状値として達成率が100%であるため、その状態を維持することを目標としました。									
ウ	成り行き値											
	目標値											
	実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠												
エ	成り行き値											
	目標値											
	実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠												
オ	成り行き値											
	目標値											
	実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠												
事務事業数		本数	13	13	13	13	13	12	13	13	14	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円					0				
		都道府県支出金	千円		17,580		2,339	2,379	310			
		地方債	千円								10,600	
		その他	千円				1,593	1,589				
		一般財源	千円	165,179	160,556	135,819	121,450	119,745	116,499	119,586	167,389	122,903
	事業費計(A)	千円	165,179	178,136	135,819	125,382	123,713	116,809	119,586	177,989	122,903	
人件費	延べ業務時間	時間	9,385	9,278	11,490	14,990	13,160	12,200	16,650	17,700	18,900	
	人件費計(B)	千円	46,925	46,390	57,450	70,150	61,000	58,000	62,200	62,350	68,350	
トータルコスト(A)+(B)		千円	212,104	224,526	193,269	195,532	184,713	174,809	181,786	240,339	191,253	

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

みどりは、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生み出す憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っています。しかしながら、近隣市と同様、都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にあります。
湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、今後も引き続き雨水浸透ますに代表される地下水の水量を確保する取組みが求められます。また、平成26年度には「雨水の利用の推進に関する法律」と「水循環基本法」の二つの法律が施行され、水資源の活用や保全などに関し、国等の責務が明らかになりました。
平成25年度に設立した「花と緑のまちづくり協議会」との協働事業は、花壇づくりや接ぎ木育苗など数多くの事業を展開しており、市民団体等の協力が不可欠となっています。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある。
いっぽうでは、崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種(落葉や日陰)苦情も多くなってきている。
水田農家の減少により、用水路の維持管理が行き届かないことによる苦情が市に寄せられている。

5 27年度の評価結果

(1) 27年度行政経営方針の取組状況

27年度行政経営方針	施策の取組状況
東京都の歴史環境保全地域に指定されている城山を中心に、古民家や湧水・用水など南部地域の魅力を最大限に活かし、プレーパークや子どもの居場所づくり、農や自然にふれあう貴重な体験の場など里山として整備、活用する城山の里山づくりを推進し、様々な人々が集う里山コミュニティの形成を進めていく。	「城山の里山づくり基本方針」に基づき、「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深め、里山コミュニティの構築に努めた。 「花と緑のまちづくり協議会」とともに、数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進めた。 平成27年度から「くにたち緑のサポーター」事業を開始し、全6回の養成講座を開催したところ50名を超える受講者があった。 平成27年度に設置された雨水浸透ますは、設置助成金により4基、窓口指導により1268基、合計1272基設置された。

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標値達成度(目標値と実績値との比較)	
成果指標ア 【みどりが多いまちだと感じる市民の割合】	
<input type="checkbox"/> 27年度目標値を達成	<input checked="" type="checkbox"/> 未達成 (<input checked="" type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果低下)
成果指標イ 【湧水の測定地点における水質基準(環境基準)達成率】	
<input checked="" type="checkbox"/> 27年度目標値を達成	<input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果低下)
成果指標ウ 【	
<input type="checkbox"/> 27年度目標値を達成	<input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果低下)
成果指標エ 【	
<input type="checkbox"/> 27年度目標値を達成	<input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果低下)
成果指標オ 【	
<input type="checkbox"/> 27年度目標値を達成	<input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 26年度実績値と比較し成果低下)
時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)	
B:成果がどちらかと言えば向上した	
他自治体との成果の比較 A(かなり高い) ~ E(かなり低い)	
C:他自治体と比べてほぼ同水準である	
背景として考えられること	
ア 大学通り緑地帯などで緑の保全や創出に向けた新たな取り組みの成果などが考えられる。	
イ 引き続き達成した。 意識調査の結果は未達成ながらも向上し、湧水の水質基準は継続して達成している。 他自治体と比べ、一人当たりの公園面積が少ないが、貴重な緑や湧水の保全に努めている。	

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

「みどりが多いと感じる市民の割合」は平成26年度に比べ6.5ポイントの増加であった。
これは、花と緑のまちづくり協議会の活動などにより、大学通り緑地帯などで緑の保全や創出に向けた新たな取り組みの成果などが考えられる。
くにたち緑のサポーター養成講座の受講者のうち、修了テストを行った結果、34名の登録サポーターを誕生させることができた。
雨水浸透ますについては、着実に設置個所が増加しており、地下水の保全に貢献している。

6 施策の課題・今後の方向性

崖線の緑の保全、確保として、崖線の公有地化を推進していくことが課題である。
「市民による公園等の管理運営事業」をさらに進めていく。
民有地の緑の減少を、どのように食い止めていくかは大変難しい課題であるが、今後、展開していく予定であるコミュニティガーデンやオープンガーデンなどの事業を活用し、少しでも緑の保全、緑化の推進に努めたい。
「城山の里山づくり基本方針」に基づき、「里人会議」を開催するとともに、各種事業を進めていく。
くにたちの緑を守る新たな担い手として期待できる「くにたち緑のサポーター」をさらに育成していくとともに、サポーターの活躍の場を今後提供していく。